






四〇〇年余の  
風雪に耐えて…

国宝  
松本城



- 松本藩 歴代藩主 六家
-  菅元忠 石川氏  
 (一五九〇)～(一六一三)  
 八万石 数正・康長
  -  三階堂 小笠原氏  
 (一六一七)～(一六七七)  
 八万石 秀政・忠真
  -  はなれお屋 先戸田氏  
 (一六三三)～(一六三三)  
 七万石 康長・康直
  -  丸に三葉葵 松平氏  
 (一六三三)～(一六三三)  
 七万石 直政
  -  黒駒に葵もつこう 堀田氏  
 (一六三八)～(一六四二)  
 十万石 松本城分七万石 正盛
  -  丸に立おもたか 水野氏  
 (一六四二)～(一七二五)  
 七万石 忠清・六代
  -  はなれお屋 後戸田氏  
 (一七二六)～(一八六九)  
 六万石 光慈・九代



【観覧案内】 公開時間 午前8時30分～午後5時(入城は午後4時30分まで) ※時期により変動有り  
 公開期間 1月1日～12月28日(ただし、1月1日～3日の公開時間は下記までお問合せ下さい。)



創始  
 松本城は戦国時代の永正年代初めに造られた深志城が始まりです。戦国時代になり世の中が乱れてくると、信濃府中といわれた松本平中心の井川に館を構えていた信濃の守護小笠原氏が、館を東の山麓の林地区に移し、その家臣らは、林城を取り囲むように支城を構えて守りを固めました。深志城もこの頃林城の前面を固めるために造られました。その後、甲斐の武田信玄が小笠原長時を追い、この地を占領し信濃支配の拠点としました。その後天正十年(一五八二)に小笠原貞慶が、本能寺の変による動乱の虚に乗じて深志城を回復し、名を松本城と改めました。

天守築造  
 豊臣秀吉は、天正十八年(一五九〇)に小田原城に北条氏直を下し天下を統一すると、徳川家康を関東に移封しました。この時松本城の小笠原氏が家康に従って下総へ移ると、秀吉は石川数正を松本城に封じました。数正・康長父子は、城と城下町の経営に力を尽くし、康長の代には天守三棟(天守・乾小天守・渡櫓)はじめ、御殿・太鼓門・黒門・櫓・堀などを造り、本丸・二の丸を固め、三の丸に武士を集め、また城下町の整備をすすめ、近世城郭としての松本城の基礎を固めました。天守の築造年代は、康長による文禄二年から三年(一五九三～四)と考えられています。

戦うための黒い堅固な天守と、平和な時代になって造られた優雅な辰巳附櫓・月見櫓。数々の優れた築城技術を今に伝えています。



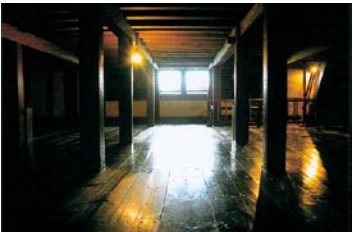
「ここは戦の時周りの敵の様子を見る場所(望楼)として使われました。天井は井桁梁でがっちりとして組まれています。天井中央にまうられているのは、二十六夜城という松本城を守る神様です。」



六階に登る階段(天守五階) 重臣たちが戦いの作戦会議を開く場所と考えられています。ほかの階にくらべて天井が高く四・五四メートルあり、そのため六階に登るこの階段にだけはおどり場が設けられ、階段が緩やかになっています。



御座の間(天守四階) 書院造り風のこの部屋は、いざというときには、城主がいるところ(御座所)になりました。天井が高く、四方から光が入ります。柱はすべて、松で、かんながかけられ、鴨居の上には小壁もあり、いねいな造りになっています。



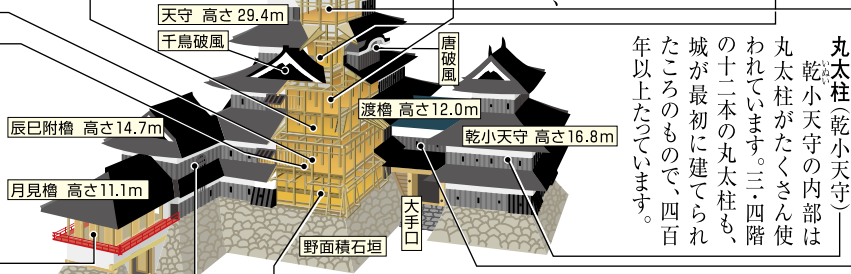
窓がない暗い部屋(天守三階) 天守閣は外からは五重に見えますが、内部は六階になっています。この階は外からはわからないので、最も安全なため、戦のとき武士が集まる場所でした。光は南側の木連格子からわずかに入るだけで暗く、敵には秘密の階でした。



特徴のある窓(天守二階) この階は窓が多く明るい階です。竖格子窓(武者窓)が東・西・南の三方にあります。四部屋に分けられていて、武士たちがつめている武者溜だったと考えられています。



丸太柱(乾小天守) 乾小天守の内部は丸太柱がたくさん使われています。三・四階の十二本の丸太柱も、城が最初に建てられたころのもので、四百年以上上っています。



松本城鉄砲蔵(天守二階) 松本市出身の故赤羽通重・か代子夫妻から寄贈された、火縄銃と関連資料の貴重なコレクションです。



渡櫓(天守への入口) 天守と乾小天守をつないでいるのが渡櫓です。天守閣への入り口である大手口は、頑丈な扉があり、簡単には中に入れないように造られています。二階には、天守の瓦や、鍛冶屋が一本作った和釘などが展示されています。



天守閣では、戦国時代の主力武器であった鉄砲戦への様々な備えを見ることが出来ます。厚い壁には矢狭間・鉄砲狭間があわせて二五ヶ所あり、天守・乾小天守・渡櫓の一階には石落が設けられています。石落は石垣を登りてくると敵を防ぐ工夫で、鉄砲と同じように鉄砲を使つての攻撃も可能な武備でした。たくさん窓の柱



建材はツガ、松などが使われています。この階は、食料や武器・弾薬の倉庫であったと考えられています。泰平の世になってから増築された二棟「辰巳附櫓」(天守の南東(辰巳)にあり、隣の月見櫓と一緒に寛永年代に造られた建物です。一階は武者窓、二階は花頭窓。花頭窓の内側には引分板戸があり、雨水を流す工夫がなされています。



「月見櫓」 月見をするための櫓で、北・東・南の舞良戸を外すと、三方がふきぬきになります。周りにめぐらされた朱塗りの回縁や船底形をした天井は、天守・渡櫓・乾小天守には見られない開放的な造りです。



御殿は天守の完成後の建造で、城主の居所と政庁を兼ねていた。いわば政治の中枢部であった。享保十二年(一七二七)に焼失、以後再建されませんでした。

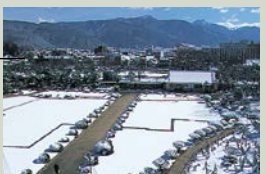


現存する日本最古の五重天守にふさわしい風格ある環境景観。歴史的・文化的、さらに美的価値も見逃せません。

太鼓門



太鼓門枳形は、文祿四年(一五九五)頃築かれ、門台北石垣上に太鼓楼が置かれ、時の合図、登城の合図、火急の合図等の発信源として重要な役割を果たしていた。平成十一年に復元されました。



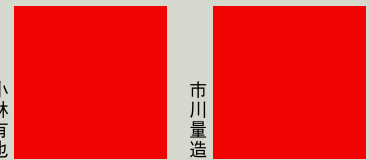
黒門 本丸に入る正門で、櫓門と枳形からなり、本丸防衛の要である。の門(櫓門)は昭和三十五年(一九六〇)に復興し、二の門と袖堀は平成二年(一九九〇)に復元されました。



二の丸御殿跡 本丸御殿焼失後、藩の政庁が二の丸御殿に移され、幕末まで中枢機関とされた。昭和五十四年から六年間かけて発掘され、史跡公園として整備され、平面復元されました。



北門馬出 北不閉門馬出 天守 内堀 外堀 惣堀 大手門枳形 東門馬出 西不閉門馬出



天守閣保存に尽力した功労者 明治時代になってからは、旧物破壊思想のもと、松本城天守も売却・破壊の運命にさらされた。天守が競売されたのを憂えた市川量造らの努力により、幾多の困難を克服して天守を買戻し、保存に貢献しました。しかし、その後、荒廃が進むばかりでした。この有様を憂えた松本中学校長小林有也らは、明治三十四年(一九〇二)天守保存会を設立して、十二年間から明治の大修理を終え、天守を倒壊の危機から救いました。

松本城の縄張り

市川量造

小林有也